

避難者支援きめ細かく

横浜 社会福祉士ら生活相談

「丁寧な」期待している。

東日本大震災の被災者が身を寄せる横浜市の一時避難所「たさがしら会館」(同市磯子区)に28日から、県社会福祉士会(本多洋美会長)による生活相談窓口が開設されている。社会福祉士が2人体制で無償、情報提供や相談を行うことで生活上の不安を取り除き、行政サービスが必要な場合は磯子区役所の担当窓口へ引き継ぐ。(佐藤 幸平)

25日に設けられた磯子区の小学校へ転入する際の社会福祉士協議会のボランティアセンターとも連携、避難者のニーズにきめ細かく対応する。県社会福祉士会による一時避難所への相談窓口開設は県内で初めて。同会は他施設でも開設できるように要請しており、本多会長は「避難所支援のモデルケース」と話している。

同会館への一時避難所設けを受け、横浜市長OBで県社会福祉士会所属の須田幸隆さんが協力を申し出、実現した。1階ロビーの一角に設けた仕切った相談コーナーを設け、相談に応じる。これまで、4月から区内



避難者と打ち解けながら生活の様子を聞く須田さん(左から2人目)ら社会福祉士。＝横浜市磯子区のたさがしら会館

の小学校へ転入する際の手続きや住居についての相談があったという。また館内で過す避難者に声を掛け、生活上の困り事や不安を聞き取っていた。今後、避難者全世帯と面談する。いわき市から家族4人で避難してきた男性(57)は「先の見通しが立たず落ち着かない。子どもを横浜の小学校に通わせるかも決まかなくて」と話し、社会福祉士に相談したいという。

磯子区でも家庭支援課は「市職員だけでは手が足りない中、避難者に寄り添える専門スタッフがいる」とことで、避難者のニーズが拾いやすくなり、不安解消に